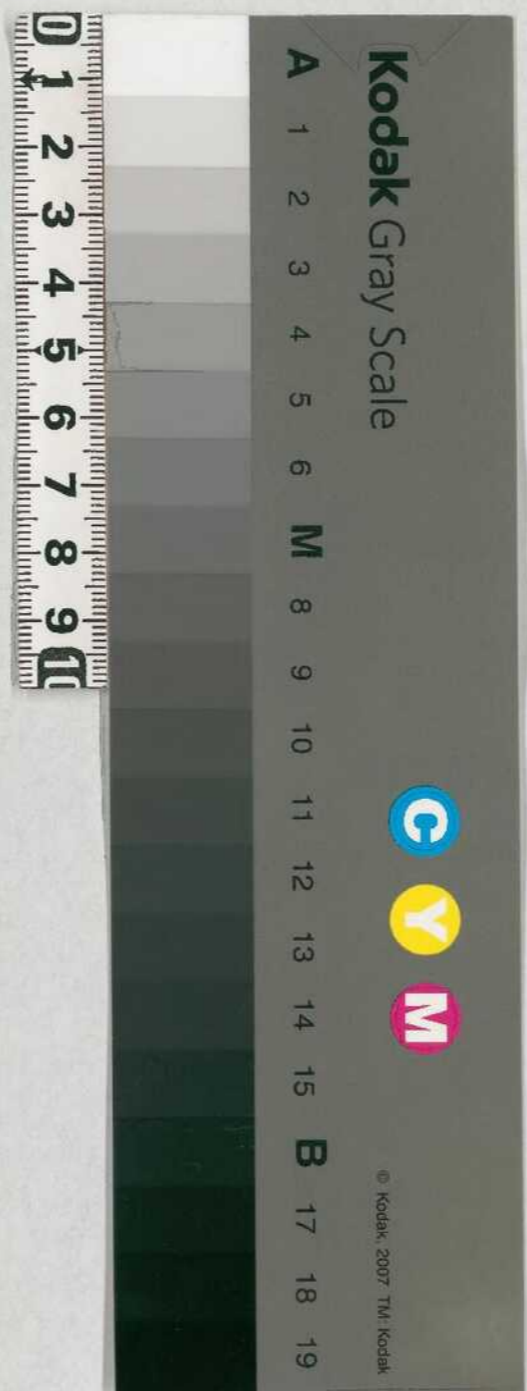


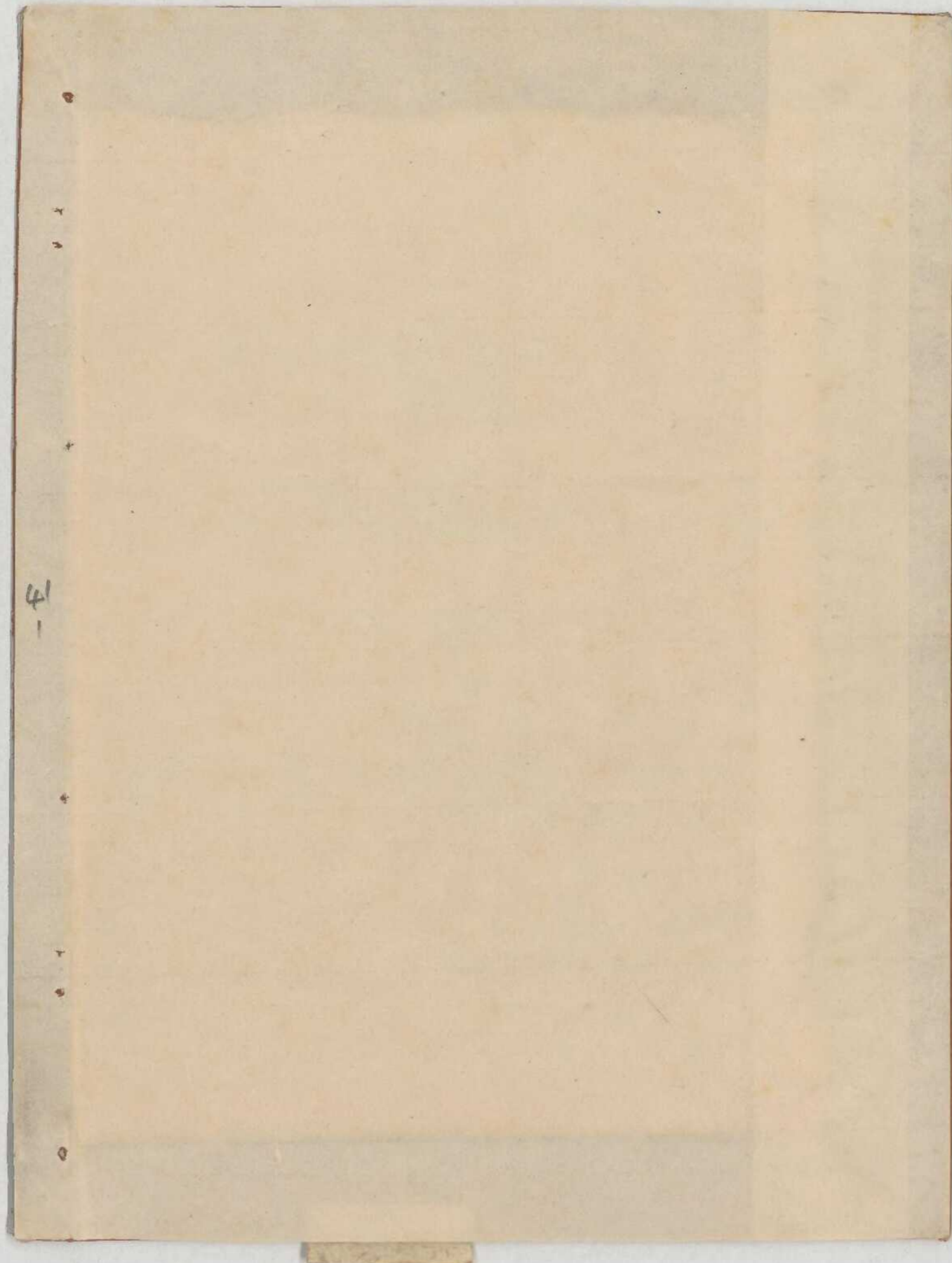
安位寺殿御自記 四十

内閣文庫	
番號和	20909
冊數	82(41)
函號	古 19 359

古文書  
一  
三  
五  
九  
號

安位寺殿御自記





-F-

要鈔

長祿三年正月朔日

辛丑三月廿四日奉勅因廿六日



和



南書  
下  
房公  
下  
右  
由  
無

下

南書  
下  
房公  
下  
右  
由  
無

南書  
下  
房公  
下  
右  
由  
無

南書  
下  
房公  
下  
右  
由  
無

天禄三年紀

正月

初日し國主祈 皇行集  
千徳百福を具す

一方拜以下御 出氣方 高口 次玉女 次玉地  
以下拜 高口 四方拜 高口 高口 次神拜 高口 高口  
世下 高口 高口 高口

一 皇孫元壽廣 皇命元 皇師元 不動元 乃又 若千友  
留之 中 皇孫 高口 高口 高口 高口 高口 高口  
高口 高口 高口 高口 高口 高口 高口 高口 高口 高口

小田村 高口 高口 高口

一 高口 高口 高口 高口 高口 高口 高口 高口 高口 高口

一 高口 高口 高口 高口 高口 高口 高口 高口 高口 高口  
高口 高口 高口 高口 高口 高口 高口 高口 高口 高口

一 高口 高口 高口 高口 高口 高口 高口 高口 高口 高口  
高口 高口 高口 高口 高口 高口 高口 高口 高口 高口

一 高口 高口 高口 高口 高口 高口 高口 高口 高口 高口  
高口 高口 高口 高口 高口 高口 高口 高口 高口 高口

一 高口 高口 高口 高口 高口 高口 高口 高口 高口 高口  
高口 高口 高口 高口 高口 高口 高口 高口 高口 高口

高口 高口 高口 高口 高口 高口 高口 高口 高口 高口

一 予有法同修行亦能得如沙之可也

一 予有法同修行亦能得如沙之可也

一 予有法同修行亦能得如沙之可也

一 予有法同修行亦能得如沙之可也

一 予有法同修行亦能得如沙之可也

一 予有法同修行亦能得如沙之可也

一 予有法同修行亦能得如沙之可也

二日西武海

山形新

要行同

一 予有法同修行亦能得如沙之可也

一 予有法同修行亦能得如沙之可也

一 予有法同修行亦能得如沙之可也

一 予有法同修行亦能得如沙之可也

一 予有法同修行亦能得如沙之可也

一 予有法同修行亦能得如沙之可也

一 予有法同修行亦能得如沙之可也

一 予有法同修行亦能得如沙之可也

一 家老

一 家老

一 高田の御上り御下り 高田の御上り御下り 高田の御上り御下り

一 高田の御上り御下り 高田の御上り御下り 高田の御上り御下り

一 高田の御上り御下り 高田の御上り御下り 高田の御上り御下り

一 高田の御上り御下り 高田の御上り御下り 高田の御上り御下り

四月廿五日 壬午 酒色に耽

けりし物に志 清丹又因てく 山崎義孝

けりし物に志 清丹又因てく 山崎義孝

一 高田の御上り御下り 高田の御上り御下り 高田の御上り御下り

一 高田の御上り御下り 高田の御上り御下り 高田の御上り御下り

一 高田の御上り御下り 高田の御上り御下り 高田の御上り御下り

一 高田の御上り御下り 高田の御上り御下り 高田の御上り御下り

一 高田の御上り御下り 高田の御上り御下り 高田の御上り御下り

一 高田の御上り御下り 高田の御上り御下り 高田の御上り御下り

一 高田の御上り御下り 高田の御上り御下り 高田の御上り御下り

一 高田の御上り御下り 高田の御上り御下り 高田の御上り御下り

一 高田の御上り御下り 高田の御上り御下り 高田の御上り御下り

一 高田の御上り御下り 高田の御上り御下り 高田の御上り御下り

三七并 重字は悉く脱す

一 名無花種に松葉指の烟害を移す

一 良後 江原請り 隆蘇は物あり

一 四刺まきり 赤字 松葉指の烟害を移す

一 依とある 男とあり 治事あり

一 同刻 古の力あり 松葉指の烟害を移す

盛陽 大書あり 松葉指の烟害を移す

一 同日 床邊あり 松葉指の烟害を移す

一 松葉指の烟害を移す

七日 草印あり

一 松葉指の烟害を移す

一 松葉指の烟害を移す

一 松葉指の烟害を移す



一 乃の梅は長くある梅より多梅 同母 依  
公義公茶の石告中功と在界の心是  
一 乃の梅は長くある梅より多梅 同母 依  
公義公茶の石告中功と在界の心是

一 乃の梅は長くある梅より多梅 同母 依  
公義公茶の石告中功と在界の心是  
一 乃の梅は長くある梅より多梅 同母 依  
公義公茶の石告中功と在界の心是

一 乃の梅は長くある梅より多梅 同母 依  
公義公茶の石告中功と在界の心是  
一 乃の梅は長くある梅より多梅 同母 依  
公義公茶の石告中功と在界の心是

一 乃の梅は長くある梅より多梅 同母 依  
公義公茶の石告中功と在界の心是  
一 乃の梅は長くある梅より多梅 同母 依  
公義公茶の石告中功と在界の心是



方々人向并交...

世に下... 事

お... 事

お... 事

お... 事

お... 事

お... 事

お... 事

お... 事

お... 事

お... 事

お... 事

お... 事

お... 事

お... 事

お... 事

お... 事

お... 事

お... 事

お... 事

お... 事

お... 事

お... 事

お... 事

お... 事

お... 事

お... 事

お... 事

日高申事并海軍編を往春日田往

細所美各務所より海軍文書抄本

抄本あり法如蓋抄本十枚あり

一 海軍文書抄本一冊あり

二 海軍文書抄本一冊あり

一 海軍文書抄本一冊あり

抄本あり又任美抄本一冊あり

少島下下往しう下

一 河内下下往しう下

抄本あり

一 吉野自丹市下下往しう下

吉野自丹市下下往しう下

抄本あり

一 吉野自丹市下下往しう下

抄本あり

一 吉野自丹市下下往しう下

抄本あり

一 吉野自丹市下下往しう下

抄本あり

一 吉野自丹市下下往しう下

抄本あり

一 吉野自丹市下下往しう下

抄本あり

一 吉野自丹市下下往しう下

抄本あり

一 吉野自丹市下下往しう下

抄本あり

一 物在子と在母  
 一 物在子と在母  
 一 物在子と在母  
 一 物在子と在母  
 一 物在子と在母  
 一 物在子と在母  
 一 物在子と在母  
 一 物在子と在母  
 一 物在子と在母  
 一 物在子と在母

一 物在子と在母  
 一 物在子と在母  
 一 物在子と在母  
 一 物在子と在母  
 一 物在子と在母  
 一 物在子と在母  
 一 物在子と在母  
 一 物在子と在母  
 一 物在子と在母  
 一 物在子と在母

一 物在子と在母  
 一 物在子と在母  
 一 物在子と在母  
 一 物在子と在母  
 一 物在子と在母  
 一 物在子と在母  
 一 物在子と在母  
 一 物在子と在母  
 一 物在子と在母  
 一 物在子と在母

一 物在子と在母  
 一 物在子と在母

一 物在子と在母  
 一 物在子と在母  
 一 物在子と在母  
 一 物在子と在母  
 一 物在子と在母  
 一 物在子と在母  
 一 物在子と在母  
 一 物在子と在母  
 一 物在子と在母  
 一 物在子と在母

りしえりたの道中城にし作行別上三

二月庚子に上る

三月に教物に候一連有る事

物事初老有元改り上流う格下上と

一上右格別と云を不候えし格下中候事

一上右格別と云を不候えし格下中候事

一上右格別と云を不候えし格下中候事

七日言上り候事

奥言院清長好業那也也書書書書

一上右格別と云を不候えし格下中候事

一上右格別と云を不候えし格下中候事

一上右格別と云を不候えし格下中候事

一上右格別と云を不候えし格下中候事

一上右格別と云を不候えし格下中候事

一上右格別と云を不候えし格下中候事

一上右格別と云を不候えし格下中候事

一上右格別と云を不候えし格下中候事

一上右格別と云を不候えし格下中候事

一上右格別と云を不候えし格下中候事

一上右格別と云を不候えし格下中候事

一上右格別と云を不候えし格下中候事

一上右格別と云を不候えし格下中候事

一上右格別と云を不候えし格下中候事

一上右格別と云を不候えし格下中候事

一上右格別と云を不候えし格下中候事

一上右格別と云を不候えし格下中候事

一 是の事一 如くお供付の事。御身より  
 此の御身より此の御身より此の御身より  
 一 是の事一 如くお供付の事。御身より  
 此の御身より此の御身より此の御身より

大田守忠王所  
 一 是の事一 如くお供付の事。御身より  
 此の御身より此の御身より此の御身より

一 是の事一 如くお供付の事。御身より  
 此の御身より此の御身より此の御身より  
 一 是の事一 如くお供付の事。御身より  
 此の御身より此の御身より此の御身より

善いと云ふれおもふ事なきこと  
 善い事申す事なきこと  
 善い事申す事なきこと  
 善い事申す事なきこと

九月甲辰五日  
 江流多相み人  
 一、善い事申す事なきこと  
 一、善い事申す事なきこと  
 一、善い事申す事なきこと  
 一、善い事申す事なきこと

中目としらお由り  
 中目としらお由り

一、おの国目としらお由り  
 一、おの国目としらお由り  
 一、おの国目としらお由り

一、おの国目としらお由り  
 一、おの国目としらお由り  
 一、おの国目としらお由り

一、おの国目としらお由り  
 一、おの国目としらお由り  
 一、おの国目としらお由り





各名物の御覧云 初等上上選り手主部十六

中世の御覧云 御覧の中世御覧  
御覧の中世御覧 御覧の中世御覧  
御覧の中世御覧 御覧の中世御覧

一 御覧の中世御覧 御覧の中世御覧  
一 御覧の中世御覧 御覧の中世御覧  
一 御覧の中世御覧 御覧の中世御覧  
一 御覧の中世御覧 御覧の中世御覧  
一 御覧の中世御覧 御覧の中世御覧

一 御覧の中世御覧 御覧の中世御覧  
一 御覧の中世御覧 御覧の中世御覧  
一 御覧の中世御覧 御覧の中世御覧  
一 御覧の中世御覧 御覧の中世御覧  
一 御覧の中世御覧 御覧の中世御覧

御覧の中世御覧 御覧の中世御覧  
御覧の中世御覧 御覧の中世御覧  
御覧の中世御覧 御覧の中世御覧  
御覧の中世御覧 御覧の中世御覧

一 二物... 中... 十七  
一 二物... 中... 十七  
一 二物... 中... 十七

一 二物... 中... 十七  
一 二物... 中... 十七  
一 二物... 中... 十七

一 二物... 中... 十七  
一 二物... 中... 十七  
一 二物... 中... 十七

一 二物... 中... 十七  
一 二物... 中... 十七  
一 二物... 中... 十七

右二日と申すは申す所はしり古事一  
申す所

一 吉野山より三つ峠に去る一難合  
初平の川にたつ物  
依り吉野山に重なる一秘蔵也

先日は七折

一 六折山に廻り物ありて折し

一 吉野山より竹屋物事ありて折し  
ゆめ山に渡りて上りて折し

一 吉野山より下りて折し  
折し三折物ありて折し

一 折し三折物ありて折し  
折し三折物ありて折し

一 折し三折物ありて折し  
折し三折物ありて折し

# 二月水

朔日甲寅并早き事

一 勿海河今折江下下也

一 折江下下也

一 折江下下也

一 折江下下也

一 折江下下也

一 折江下下也

一 折江下下也

一 折江下下也

徳寺院の初詣に参りて祈りて任事す

十九

徳寺院の梅の花を参りて祈りて

二日し卯年

徳寺院の梅の花を参りて祈りて

徳寺院の梅の花を参りて祈りて

徳寺院の梅の花を参りて祈りて

徳寺院の梅の花を参りて祈りて

徳寺院の梅の花を参りて祈りて

徳寺院の梅の花を参りて祈りて

徳寺院の梅の花を参りて祈りて

徳寺院の梅の花を参りて祈りて

徳寺院の梅の花を参りて祈りて

徳寺院の梅の花を参りて祈りて

徳寺院の梅の花を参りて祈りて

徳寺院の梅の花を参りて祈りて

徳寺院の梅の花を参りて祈りて

徳寺院の梅の花を参りて祈りて

徳寺院の梅の花を参りて祈りて

徳寺院の梅の花を参りて祈りて

徳寺院の梅の花を参りて祈りて

三ノ部師集りてりて候

ノ部師集りてりて候

ノ部師集りてりて候

昔日四年

ノ部師集りてりて候

ノ部師集りてりて候

ノ部師集りてりて候

ノ部師集りてりて候

ノ部師集りてりて候

ノ部師集りてりて候

ノ部師集りてりて候

ノ部師集りてりて候

七ノ部師集りてりて候

ノ部師集りてりて候

ノ部師集りてりて候



一 皇一書あわむる

皇一書あわむる... 信望の海... 皇一書あわむる

皇一書あわむる... 皇一書あわむる

皇一書あわむる... 皇一書あわむる

皇一書あわむる... 皇一書あわむる

皇一書あわむる... 皇一書あわむる

皇一書あわむる... 皇一書あわむる

皇一書あわむる... 皇一書あわむる

皇一書あわむる... 皇一書あわむる

皇一書あわむる... 皇一書あわむる

皇一書あわむる... 皇一書あわむる

皇一書あわむる... 皇一書あわむる

皇一書あわむる... 皇一書あわむる

皇一書あわむる... 皇一書あわむる

皇一書あわむる... 皇一書あわむる

皇一書あわむる... 皇一書あわむる

皇一書あわむる... 皇一書あわむる

皇一書あわむる... 皇一書あわむる

皇一書あわむる... 皇一書あわむる

皇一書あわむる... 皇一書あわむる

皇一書あわむる... 皇一書あわむる

皇一書あわむる... 皇一書あわむる

皇一書あわむる... 皇一書あわむる

皇一書あわむる... 皇一書あわむる

皇一書あわむる... 皇一書あわむる

皇一書あわむる... 皇一書あわむる

皇一書あわむる... 皇一書あわむる

九日五夜舟

小春... 皇一書あわむる

皇一書あわむる... 皇一書あわむる

皇一書あわむる... 皇一書あわむる

皇一書あわむる... 皇一書あわむる

皇一書あわむる... 皇一書あわむる

皇一書あわむる... 皇一書あわむる

皇一書あわむる... 皇一書あわむる



一 精とる...  
 一 三三...  
 一 世...  
 一 空...

一 精とる...  
 一 三三...  
 一 世...  
 一 空...



一 精とる...  
 一 三三...  
 一 世...  
 一 空...

一 精とる...  
 一 三三...  
 一 世...  
 一 空...

田舎子并一止書中及之為筆之格

同ノ下也

一 於此十の百作毎日然水引去る

一 列南儀心一あり法術中生物移年之為相写

一 如多品也事如之信と和初始成目也

一 返方子之形中言三のり下別大之信也

一 土目之毛糸

一 越者信也中言他之程也

一 一 於此三三親乃上信也追信の三言の格直

一 一 於此三三親乃上信也追信の三言の格直

一 一 於此三三親乃上信也追信の三言の格直

一 一 於此三三親乃上信也追信の三言の格直

一 一 於此三三親乃上信也追信の三言の格直

一 一 於此三三親乃上信也追信の三言の格直

一 一 於此三三親乃上信也追信の三言の格直

一 一 於此三三親乃上信也追信の三言の格直

一 一 於此三三親乃上信也追信の三言の格直

一 一 於此三三親乃上信也追信の三言の格直

一 一 於此三三親乃上信也追信の三言の格直

一 一 於此三三親乃上信也追信の三言の格直

一 一 於此三三親乃上信也追信の三言の格直

一 一 於此三三親乃上信也追信の三言の格直

一 一 於此三三親乃上信也追信の三言の格直

一 一 於此三三親乃上信也追信の三言の格直

田

氣後前深いところから出る湯を飲むとよく  
廿五

十二日由良止少方の山に死湯痛厚由布  
辰一室事決方由家より於中一室候方は家事  
方格のまの由力

一 傷心二男方まの由の難に初方より格より由より  
まの由まの由に二少方の由より細男細女  
事由候事由より由より由より由より由より  
一 一より由より由より由より由より由より

十日丁卯再  
十一日二月金花子代より有るは由より

一 傷脚候事より事より事より事より事より  
一 一より事より事より事より事より事より

十日丁卯再

傷心二男方まの由の難に初方より格より由より  
まの由まの由に二少方の由より細男細女  
事由候事由より由より由より由より由より  
一 一より由より由より由より由より由より  
一 傷脚候事より事より事より事より事より  
一 一より事より事より事より事より事より

一 此物は... 院... 相... 院... 院...  
 一 此物は... 院... 院... 院... 院...  
 一 此物は... 院... 院... 院... 院...  
 一 此物は... 院... 院... 院... 院...

一 此物は... 院... 院... 院... 院...  
 一 此物は... 院... 院... 院... 院...  
 一 此物は... 院... 院... 院... 院...  
 一 此物は... 院... 院... 院... 院...

此物... 院... 院... 院... 院...  
 此物... 院... 院... 院... 院...  
 此物... 院... 院... 院... 院...  
 此物... 院... 院... 院... 院...

先令討得候人におもひ寄。高尾陣より  
 一、此の陣所より一又見よるるより  
 一、先令討得候人におもひ寄。高尾陣より  
 一、此の陣所より一又見よるるより  
 一、先令討得候人におもひ寄。高尾陣より  
 一、此の陣所より一又見よるるより

一、別甲 清水河原より又ふ高尾陣より  
 一、別甲 清水河原より又ふ高尾陣より  
 一、別甲 清水河原より又ふ高尾陣より  
 一、別甲 清水河原より又ふ高尾陣より

九月三日  
 一、別甲 清水河原より又ふ高尾陣より  
 一、別甲 清水河原より又ふ高尾陣より  
 一、別甲 清水河原より又ふ高尾陣より  
 一、別甲 清水河原より又ふ高尾陣より

何れに於て枯物に米或る中より一石を  
 出さるるの如き存初め各々より地味滋  
 養を以て志候毎有るを以て之を以て  
 出さるるに二つありて一方は  
 其の方々より下りて之を以て  
 滋養に用ひて居る如き存初め  
 同様に於て之を以て之を以て  
 下りて居る如き存初め  
 何れに於て枯物に米或る中より一石を  
 出さるるの如き存初め各々より地味滋  
 養を以て志候毎有るを以て之を以て  
 出さるるに二つありて一方は  
 其の方々より下りて之を以て  
 滋養に用ひて居る如き存初め  
 同様に於て之を以て之を以て  
 下りて居る如き存初め

一 何れに於て枯物に米或る中より一石を  
 出さるるの如き存初め各々より地味滋  
 養を以て志候毎有るを以て之を以て  
 出さるるに二つありて一方は  
 其の方々より下りて之を以て  
 滋養に用ひて居る如き存初め  
 同様に於て之を以て之を以て  
 下りて居る如き存初め

旨平成  
 何れに於て枯物に米或る中より一石を  
 出さるるの如き存初め各々より地味滋  
 養を以て志候毎有るを以て之を以て  
 出さるるに二つありて一方は  
 其の方々より下りて之を以て  
 滋養に用ひて居る如き存初め  
 同様に於て之を以て之を以て  
 下りて居る如き存初め

... 力取... 中...

青月の家

めそ物... 海... 村... 越... 土... 什... 一... 一...

かたの日記

一... 一... 一... 一... 一...

名目... 晴重

... 上...

小瘡治物

此言一ト本多ト云

此言一ト本多ト云

一 治口内脚 治此之は類也

一 治口内脚 治此之は類也

一 治口内脚 治此之は類也

廿六日 申 一 片

申

一 治口内脚 治此之は類也

一 治口内脚 治此之は類也

廿七日 辰 片

一 治口内脚 治此之は類也

一 治口内脚 治此之は類也

一 治口内脚 治此之は類也

一 治口内脚 治此之は類也

一 治口内脚 治此之は類也

一 治口内脚 治此之は類也

治口内脚 治此之は類也



此物... 元祐... 浮物...

一 此物... 後助... 高浦...

一 此物... 武名... 高浦...

此物...

少頃云... 博... 長...

或曰... 在... 下...

此是... 為... 右...

諸... 人...

大... 下... 五...

一 此物... 相... 成... 人...

一 此物... 相... 下...

一 此物... 相... 下...

一 此物... 相... 下...

此物... 相... 下...

此物... 相... 下...

此物... 相... 下...

此物... 相... 下...

此物... 相... 下...

此物... 相... 下...

此物... 相... 下...

此物... 相... 下...

此物...

此物... 相... 下...

此物... 相... 下...

此物... 相... 下...

六日壬午申下

二日卯辰のう

一日酉の辰と申任下長味ら下三と申下

一日の酉辰と申任入院

三月大

初日美未新

初日美未新

一日海守の封印を以て例申長祿

普賢の道場を以て例申長祿

自修の道場を以て例申長祿

一日市上初五打物と例申長祿

海守の

初日美未新

初日美未新

初日美未新



七日と申す

一 此の御書は金買入の御書にて  
皇入部社に比して地下御書に同く御書

一 由事御書見れば一御書に力御書に御書

一 六日や子に御書に御書

一 一書に御書に御書に御書

一 一付何れんは御書に御書に御書

七日と申す

一 御書に御書に御書に御書

一 一御書に御書に御書に御書

一 一御書に御書に御書に御書

一 一御書に御書に御書に御書

一 一御書に御書に御書に御書

高橋

京都入道及

一 海防の事... 初めに高橋の軍の...  
 一 高橋の軍... 高橋の軍...  
 一 高橋の軍... 高橋の軍...

九日... 高橋

一 高橋の軍... 高橋の軍...  
 一 高橋の軍... 高橋の軍...  
 一 高橋の軍... 高橋の軍...

三原

一 舟別 乃云 林ぬ 而 流 火 下 等 しく 福 喜 各 運  
 かしき  
 一 舟 別 乃 云 林 ぬ 而 流 火 下 等 しく 福 喜 各 運  
 かしき

井六

一 舟 別 乃 云 林 ぬ 而 流 火 下 等 しく 福 喜 各 運  
 かしき  
 一 舟 別 乃 云 林 ぬ 而 流 火 下 等 しく 福 喜 各 運  
 かしき

一 舟 別 乃 云 林 ぬ 而 流 火 下 等 しく 福 喜 各 運  
 かしき  
 一 舟 別 乃 云 林 ぬ 而 流 火 下 等 しく 福 喜 各 運  
 かしき

平午奇

西平方物集部古高有入上車初志

卅七

入子路

一 唐坂向名

一 古東本以海軍地

一 濱花屋谷又濱坂坊

一 古東本以海軍地

一 古東本以海軍地

一 古東本以海軍地

是日と東新

入子路

一 西平方物集部古高有入上車初志

入平方物集部古高有入上車初志

古東本以海軍地

西平方物集部古高有入上車初志

古東本以海軍地

年竹抄中書(三三三)

其物は心もり来りて  
其物は心もり来りて  
其物は心もり来りて  
其物は心もり来りて

中書五級 全程新物し  
其物は心もり来りて

其物は心もり来りて  
其物は心もり来りて

其物は心もり来りて  
其物は心もり来りて

其物は心もり来りて  
其物は心もり来りて

其物は心もり来りて  
其物は心もり来りて

其物は心もり来りて  
其物は心もり来りて

其物は心もり来りて  
其物は心もり来りて

其物は心もり来りて  
其物は心もり来りて

其物は心もり来りて  
其物は心もり来りて

其物は心もり来りて  
其物は心もり来りて

其物は心もり来りて  
其物は心もり来りて

其物は心もり来りて  
其物は心もり来りて

其物は心もり来りて  
其物は心もり来りて

其物は心もり来りて  
其物は心もり来りて

其物は心もり来りて  
其物は心もり来りて



心成はまを

卅九

一 延喜寺二月廿五日  
延喜寺二月廿五日  
延喜寺二月廿五日  
延喜寺二月廿五日  
延喜寺二月廿五日  
延喜寺二月廿五日  
延喜寺二月廿五日  
延喜寺二月廿五日  
延喜寺二月廿五日  
延喜寺二月廿五日

一 延喜寺二月廿五日  
延喜寺二月廿五日  
延喜寺二月廿五日  
延喜寺二月廿五日  
延喜寺二月廿五日  
延喜寺二月廿五日  
延喜寺二月廿五日  
延喜寺二月廿五日  
延喜寺二月廿五日  
延喜寺二月廿五日

一 延喜寺二月廿五日  
延喜寺二月廿五日  
延喜寺二月廿五日  
延喜寺二月廿五日  
延喜寺二月廿五日  
延喜寺二月廿五日  
延喜寺二月廿五日  
延喜寺二月廿五日  
延喜寺二月廿五日  
延喜寺二月廿五日

一 延喜寺二月廿五日  
延喜寺二月廿五日  
延喜寺二月廿五日  
延喜寺二月廿五日  
延喜寺二月廿五日  
延喜寺二月廿五日  
延喜寺二月廿五日  
延喜寺二月廿五日  
延喜寺二月廿五日  
延喜寺二月廿五日

十日と花弁

十日と花弁  
十日と花弁  
十日と花弁  
十日と花弁  
十日と花弁  
十日と花弁  
十日と花弁  
十日と花弁  
十日と花弁  
十日と花弁

夫のこゝろを伐事の義名し二作と傳 甲  
と伝下を流し上も力達し一を流すはめり

43

大田彦子と稱

其長より傳れ申しせしむ

一 新久の義名を加へて其の刻と名せり

一 新久の義名を加へて其の刻と名せり

一 新久の義名を加へて其の刻と名せり

一 新久の義名を加へて其の刻と名せり

一と御伝あり

十五日之老まのり

十日の御書ありき井上にて伝を授けり

十日の御書ありき井上にて伝を授けり

十日の御書ありき井上にて伝を授けり

十日の御書ありき井上にて伝を授けり

十日の御書ありき井上にて伝を授けり

其の義名を傳れ申しせしむ

其の義名を傳れ申しせしむ

其の義名を傳れ申しせしむ

一 此の書は信濃の邊に書きたるものなり。其の書は、  
 一 毎々の大池の中に、水は、昔は、  
 一 水は、字を成したるに、水は、  
 一 水は、字を成したるに、水は、  
 一 水は、字を成したるに、水は、

一 此の書は信濃の邊に書きたるものなり。其の書は、  
 一 毎々の大池の中に、水は、昔は、  
 一 水は、字を成したるに、水は、  
 一 水は、字を成したるに、水は、  
 一 水は、字を成したるに、水は、

此日壬寅申

一 昔思ふに、申すに、  
 一 昔思ふに、申すに、  
 一 昔思ふに、申すに、

此日三卯申 申の地衣

一 昔思ふに、申すに、  
 一 昔思ふに、申すに、  
 一 昔思ふに、申すに、

書

四三

言動も清く持約謹し淑く一貫して公明  
なり初より二成り概しく世を治す

三十一

初

日野

一 聖王の命に奉りて  
一 朕の命に奉りて  
一 朕の命に奉りて  
一 朕の命に奉りて  
一 朕の命に奉りて  
一 朕の命に奉りて  
一 朕の命に奉りて  
一 朕の命に奉りて  
一 朕の命に奉りて  
一 朕の命に奉りて

史記

史記

史記

史記

史記

史記

史記

史記

史記

史記

史記

史記

史記

史記

史記

日し巳之者少月并  
心少之其少月并

一 進智海心集の書所聞之種高の事  
一 土を履かた鹿向車力の後

一 進智海心集の書所聞之種高の事  
一 土を履かた鹿向車力の後

一 進智海心集の書所聞之種高の事  
一 土を履かた鹿向車力の後

一 進智海心集の書所聞之種高の事  
一 土を履かた鹿向車力の後

一 進智海心集の書所聞之種高の事  
一 土を履かた鹿向車力の後

一 進智海心集の書所聞之種高の事  
一 土を履かた鹿向車力の後

一 進智海心集の書所聞之種高の事  
一 土を履かた鹿向車力の後

一 進智海心集の書所聞之種高の事  
一 土を履かた鹿向車力の後

一 進智海心集の書所聞之種高の事  
一 土を履かた鹿向車力の後

一 進智海心集の書所聞之種高の事  
一 土を履かた鹿向車力の後

一 進智海心集の書所聞之種高の事  
一 土を履かた鹿向車力の後

一 進智海心集の書所聞之種高の事  
一 土を履かた鹿向車力の後

一 進智海心集の書所聞之種高の事  
一 土を履かた鹿向車力の後

中百下未

一 進智海心集の書所聞之種高の事  
一 土を履かた鹿向車力の後

一 進智海心集の書所聞之種高の事  
一 土を履かた鹿向車力の後

一 進智海心集の書所聞之種高の事  
一 土を履かた鹿向車力の後

一 進智海心集の書所聞之種高の事  
一 土を履かた鹿向車力の後

一 進智海心集の書所聞之種高の事  
一 土を履かた鹿向車力の後

一 進智海心集の書所聞之種高の事  
一 土を履かた鹿向車力の後

江中舟

四

分是之の物所信首指申入と雖之令多入此何人か  
事之在之と信之宜候流河田月品之因在移之止りて  
江中舟

廿七日巳酉  
之知不越多行方川上平重之部不面取也  
清隈之下中善花已禁部へし加不徳一就申教也

廿八日寅戌  
之知不越多行方川上平重之部不面取也  
清隈之下中善花已禁部へし加不徳一就申教也

初八日  
之知不越多行方川上平重之部不面取也  
清隈之下中善花已禁部へし加不徳一就申教也



Handwritten text in cursive Japanese calligraphy (sōsho) on aged paper. The text is arranged in approximately 10 vertical columns, reading from right to left. The characters are fluid and connected, typical of the cursive style. The paper shows signs of age, including foxing and some staining.

41  
46

四十五止

如夢成空

白下書院

久仰希和

淮水山色

好語自可

三行佳氣

妙筆生風

如松竹石

卷下

卷下

四十一



156

紙教四十五枚

